

福利厚生レポート

企業と社会をつなぐ“プロボノ” Vol.2【2019年1月発行】

お問合せ先
TEL:03-5533-5802
E-mail: fukurikosei@nissay.co.jp

人生100年時代に向けた、“プロボノ”による主体的キャリア形成

認定NPO法人サービスグラント

○内閣府によると、2017年の労働力人口6,720万人のうち20.2%が60歳以上であることが明らかになっています。日本の労働者の5人に1人となった60歳以上の人材へ企業としての活用対応は急務となっています。
○人生100年時代といわれる現代社会。高齢者だけでなく若年層においても自らのキャリアを主体的かつ長期的な目線で形成することが求められていく中で、近年“プロボノ”への期待が高まっています。

1. 活躍し続けられる社会へ

我が国の総人口はおよそ1億2,646万6千人（総務省統計局・2018年5月1日確定値）です。65歳以上の高齢者は3,541万6千人で増加し続ける一方、64歳以下の人口は減少を続けています。この傾向が続いた場合、2030年から2035年にかけて全ての都道府県で総人口が減少し、2055年には1億人を割込むといわれています。

総人口が減る一方で、高齢者比率は増え続けます。人生100年時代を生き抜くには、今までの価値観と働き方を大きく変えていかなくてはなりません。また、ますます深刻となる人手不足を迎え、企業もシニア人材を積極的に活用していく必要が叫ばれていますが、こうした時代に向けて注目されているのが、パラレルキャリア形成における一助としての“プロボノ”です。

2. 成長機会としての“プロボノ”

“プロボノ”とは、「社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや専門的知識を生かしたボランティア活動」を意味します。

“プロボノ”に参加した多くの人が、普段の仕事ではなかなか出会うことのない人々と一緒に一定期間プロジェクトに取り組むことで刺激を受け、視野の広がりや人間的成長を経験しています。（図1）

【図1】参加したことで、どのような変化がありましたか？（複数回答）

<私生活編>*複数回答

1位

・自身の視野が広がったり、人間的成長につながった（160名【76.9%】）

2位

・社会問題やNPOに対する見方や考え方が変わった（80名【38.5%】）

3位

・ボランティア活動に関する興味関心が高まった（63名【30.3%】）

出典：認定NPO法人サービスグラント「プロボノコンセンサス2017」

3. 社外活動での視点の広がり

プロボノ活動に参加して社会的課題に触れ、特定の地域や枠組みの中で取り組む組織や活動に触れることは、自分の強みや課題について棚卸を行い、自らの働き方やキャリアの選択肢を考えることに繋がる効果があるといわれています。

認定NPO法人サービスグラントが企画・運営する「プロボノ価値共創プログラム」では、50～60代のいわゆるシニアと呼ばれる層に向けて、以下のようなプログラムを提供しています。（図2）

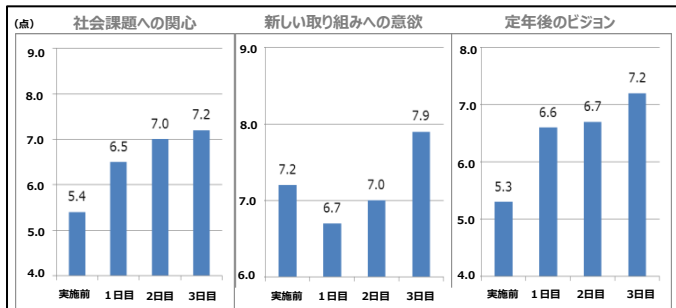
【図2】プロボノ価値共創プログラム



出典：認定NPO法人サービスグラント作成

約1カ月間にわたるプログラム（集合形式で実践するのは、計4日間）に参加し、社会的課題に触れたり、自社以外の活動を知ることで、ビジネス以外のキャリアアップや、雇用延長に向けてのスキルアップ・モチベーションの向上に繋がる効果も期待できます。

【図3】プログラム参加者による自己評価



出典：認定NPO法人サービスグラント「サービスグラント年次報告書」(2017-2018)
(次ページに続く)

【図4】プロジェクト中の様子



出典：認定NPO法人サービスグラント

参加された方からは以下のような感想がありました。

＜参加者の感想＞

「定年退職後の『はたらく』具体的なイメージとその実現に向けた定年前の心技体の準備不足という認識を持たた」

(50代 電機メーカー勤務)

「50歳のうちからNPOやプロボノについて知識を得ることは60歳または65歳以降の人生設計の幅が広がる」

(50代 ソフトウェア会社勤務)

「異業種の方々との交流はとても良い経験となりました」

(50代 保険会社勤務)

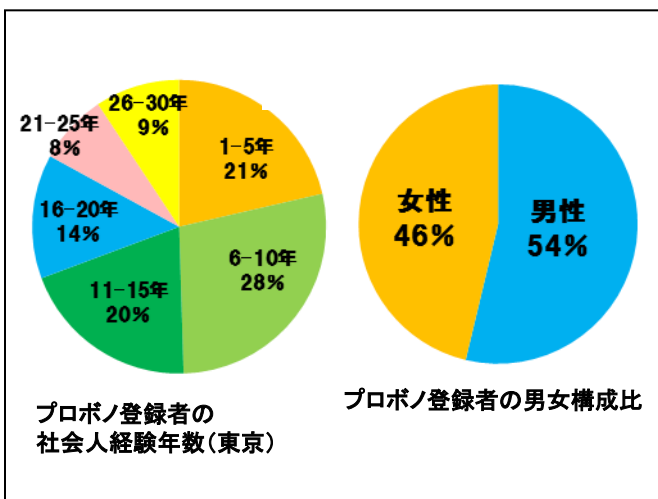
「こういう機会はなかなか能動的には求めないので良かった」

(60代 IT企業勤務)

4. 人生100年時代に向けたステップアップ

認定NPO法人サービスグラントでは、プロボノワーカーとして自分のスキルを登録している人の数は2018年12月現在で4,600人以上となっており、社会人経験年数の内訳(東京)、男女構成比は以下になっています。若手世代が多い中、50代以上の登録も増えており、プロボノのすそ野は着実に広がりを見せています。(図5)

【図5】プロボノ登録者の社会人経験年数と男女構成比



出典：認定NPO法人サービスグラント「サービスグラント年次報告書」(2017-2018)

業種・世代を問わず広がりを見せる理由には、長らく一つの会社で働き続けたシニア層が、人生の後半戦を迎えて、再び、いきいきとした生活にシフトしていく新たなチャレンジへのきっかけになるとして注目していることが考えられます。

貴社・貴団体では社員のキャリア形成に関し課題やお困りの点はありませんか。

WS2018-883(2019.1.22)

また、シニア層に限らず、人生100年時代に向け、早期から多様な人材と関わって、自分の能力を再確認すると同時に、社会課題や地域問題に取り組んでいくことで、自らのロールモデルとなる出会いや、将来のビジョンを明確にすることにも繋がりたいという声も出てきています。

5. キャリア形成の見直し

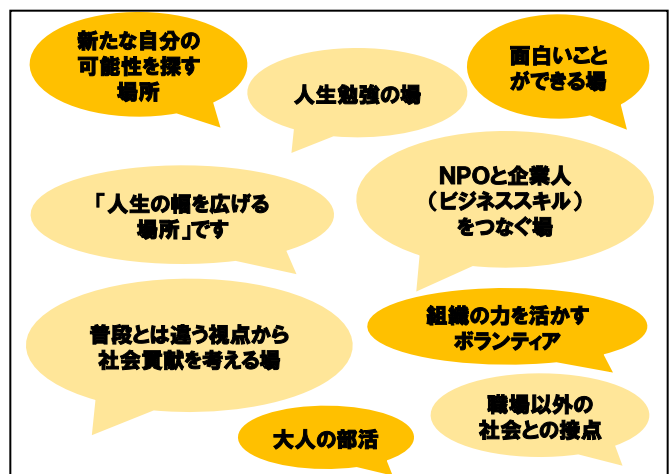
「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」では65歳までの安定した雇用を確保するため、企業に「定年の引き上げ」「継続雇用制度の導入」「定年制の廃止」のいずれかの措置を講じるように義務付けています。超高齢社会を迎え、シニア層の就労の機会については、個々人だけでなく企業としても、働き方も含めた長い視点で考えていく必要があります。

しかし、65歳を過ぎてすぐに新しいキャリアにチェンジしようとしても、なかなか難しいのが現実です。これからは、65歳を迎えて第二の人生設計を考える「セカンドキャリア」ではなく、現役時代から自分の勤務先以外のキャリアも考えていく「パラレルキャリア」の時代になってきているといえます。

シニア層の社会参加は、健康寿命にも影響するといわれており、健康と社会要因の関係について長年にわたり研究を続けてきた千葉大学の近藤克則教授の愛知県武豊町における「武豊プロジェクト」調査によると、地域の「憩いのサロン」に頻繁に通う人は通わない人に比べ、要介護認定を受けるリスクが半分であることが5年の観察期間からわかりました。この研究から、社会や地域活動への参加は、介護予防に効果的であることが実証されました。

また、プロボノのプロジェクトをとおしてNPOや地域活動団体などで活躍する様々な人に出会い、その生き方に触れることで、自分自身のキャリアの振り返りだけでなく、「パラレルキャリア」形成に向けた足がかりとなることにも期待できます。

【図6】プロボノワーカー参加後アンケートでのコメント



出典：認定NPO法人サービスグラント「プロボノコンセンサス2017」

シニア人材にとっては、社会的課題に触れて新たな刺激を受けることで自分の強みや課題について棚卸を行い、自らの働き方やキャリアの選択肢を増やすことにつながるプロボノ活動。人生100年時代となった今、長期的な視点での人材の育成と活用に向けた機会として、プロボノへの期待は高まっています。